

# 日野稲門会報

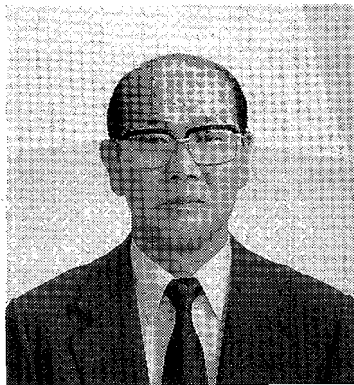
第7号

日野稲門会局  
事務局

清水方  
日野市豊田4-37-12  
☎0425-86-7798

## ご挨拶

日野稲門会々長 千田 吉郎



残暑厳しい今日この頃ですが、皆様にはご多幸にてお過しの事と拝察し、心よりお慶び申しあげます。  
さて、日野稲門会も発足以来十八年の歳月が経過いたしました。その間会員の交流も何人かの幹事の努力と、会員皆様のご理解とご協力によって今日に至っております。

私事ではありますが八月に旧制中学校の「壮年古稀」の同窓会があり出席して参りました。それぞれ齢七十に達したものの男子の平均寿命からは、まだ駆け出しであります

生の生きざまをお互いに確かめました。

論語に「朝に道を聞かば、夕に死するとも

可なり」とあります。長生きも幸せなこと

ですが、そのことよりも日々どう生きている

かが、いかに死するかに通ずるものですし、

逆のよく死する人は、よく生きた人である

と思います。「古きを温めて、新しきを学ぶ」。

人生七十年を生きて、私は一つの節目を感

じながら、残る人生を大切に、新しき夢

を追うて精進したいと念願しております。

当稲門会では、来る十月十八日(土)に総

会を開きます。当日は母校の人間科学部の森

教授をお招きして「早稲田スポーツ」につい

ての講演を予定しております。会員の皆様方

には気楽にご参加下さいますようご来賀をお

待ちしております。

(24年・体育)

## わがテニス三〇年小史

弁護士 山田 裕四

私の硬式テニス歴も、今年で三〇年になる。この機会に、お世話になった球友を思い起し感謝を申し上げたい。

思い起せば、昭和四〇年、前橋修習時代に軟式から硬式に転向した。同期の宮沢健治氏と下宿が同じこともあって、裁判所の前庭のコートで、テニスに熱中した。宮沢俊樹氏から硬式の手解きを受け、硬式のおもしろさを憶えた。夕食に間に合わないことも度々あった。お蔭で受験勉強でひ弱になっていた身体を鍛えることができた。

弁護士になった昭和四二年、同期の重松彰一氏、高松滋氏、金井正人氏等のテニス仲間に加えていただき、「軽井沢合宿テニス」に参加した。昭和四二年から毎年夏、家族ぐるみで合宿し以後一三回におよんだ。合宿の三日間は、早朝から日暮れまで、テニス、テニスの連続であった。参加者は、乙部二郎氏、宇津呂英雄氏、田中昌弘氏、佐々木一彦氏、安原浩氏等であり、甲府から五味和彦氏、八巻紀臣氏も参加した。

昭和五〇年頃から、「神宮早朝シングルス」のリーグ戦が、毎月行なわれ、三年ばかり続いた。午前六時半に集合、九時半に試合終了、それから法廷へ直行した。高木典雄氏、村山

弘義氏、故斎藤次郎氏も時に参加されたが、常連は、乙部、宇津呂、重松、高松、佐々木の各氏のほか、相良一郎氏等であった。

リーグ戦の成果は、東西對抗戦で、東軍が優勝できるようになったことである。私は遅刻防止のため代々木の森の近くに宿泊所を取

得し、現在は事務所として使用している。「テニス仲間よ！ありがとう。」感謝、感謝である。

東西對抗戦は昭和四四年から連続二六回出場した。東宮職、宮内庁對抗戦は昭和四八年から連続二〇回出場した。いずれも高松滋氏とのペアが多い。東宮職戦では勝ちが多く、成績優秀賞を頂いた。高松、山田組に勝てたらA級と目標にされたが、わがペアがA級で出場できた回数に残念ながら少ない。13(佐々木)、15位か？

昭和五〇年に「花の一九期」時代が、到来した。東京法曹クラブの幹事会、東宮御所との對抗戦、新潟遠征テニス、どこでも一九期の仲間が多数参加した。東西對抗戦の前日の、一九期テニス会、研修二〇周年記念テニス会にも、二〇数名の参加をえた。強豪の佐々木一彦氏と佐々木努氏に「強い佐々木」と「巧い佐々木」と命名し、互の名譽を尊重し、頑張っていた。修習時の横綱は、風間士郎氏と、服部豊氏であった。風間氏は今だに健在であるが、服部氏が引退して久しい。し

かし、西に大沼容之氏が、東西戦の運営について、堂々たる論陣を張り、東に重松氏が事務局の重責を荷って久しい。共に頼もしい。

裁判官退職組の森本雄司と二宮征治氏はテニスにも熱心であるが、在京の岩井俊氏、瀬戸正義氏、原田和徳氏、八束和廣氏等が、裁判実務に忙しく、コートに姿を見せないのはさみしい。

昭和五七年八王子に転居し、三多摩クラブで、裁判所チームと対戦した。安田実氏、元吉麗子氏、原敏雄氏等に対し、鷹取謙治氏、鈴木仁氏、原口紘一氏、井上章夫氏等で応戦した。山中湖クラブに合宿し、懇親会で深田源次氏から裁判の経験談を聞いて、益するところが多かった。

陽向テニス会を井田邦弘氏、千葉憲雄氏、田嶋春一氏から引継いで、平成元年から数年、桜の花の下で、「花見テニス」を開催した。立川ルーデンス、八王子ローン、東京テニス、須玉グリーン等々で。井田恵子先生が総長の職を辞められたのち、病に倒れ他界されたので「追悼テニス会」を催した。その後、人生の無常を感じ、近頃、「花見テニス」を継続する気力を失った。

あの天然芝の東京テニス倶楽部で、東京弁護士会の会派を越えての親睦テニス会と、東京法曹クラブの神崎敬直氏の会長就任、重松氏の副会長就任と吉江知養氏の長寿の祝いの

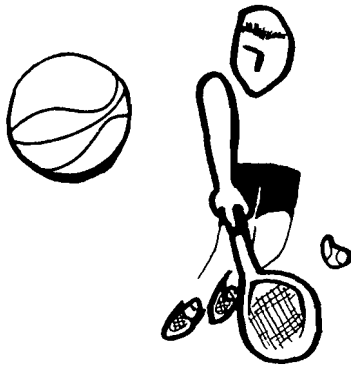
テニス会が、開かれた。特に印象深い。

現在は、自宅近くの東公園をホームコートとする「有朋クラブ」に入会し、砂川御大をはじめとする逸材、寛容な人たちと、流れる雲を眺め、風の色を見つめながら、「楽しいテニス」に参加している。

今後、私は、大長老の吉江知養先生（満九六才）が、一〇〇才まで、テニスを楽しめられることを祈り、できることならその補佐役を努めたいと願っている。私自身も、また、一〇〇才まで、相手を楽しませるテニス道に徹し、さらに球友の輪を広めたいと望んでいる。

以上

(一九九期) (東京弁護士会)  
第三〇回大会記念誌 全国法曹東西対抗テニス大会記録誌



### サッカーのおすすめ

日本人は熱しやすくさめやすいというけれど、ブームはあつという間に来てどこかに消えてしまうものだ。

四年前にJリーグが誕生した時は、町中に「オレ・オレ・オレ」が流れ、誰も彼もがサッカー一色だった。グッズが売れ、スタンドはいつも満員だった。

横浜フリューゲルスがサポーターをしている私もいたる所で「試合を見たいがチケットは手に入らないか」とか「ぜひ連れていってくれ」とか言われたのだが、実際に二枚の入場券をとるのはむずかしかった。

ところが二年たつとあつという間にブームが去ってしまった、スタンドに閑古鳥がなくことも多くなった。すると、手の平を返した様に誘っても誰も一緒に行かなくなった。

そんなサッカーであるが、ブームが去っておちついた分、ぜひおすすめしたい。

まずチケットはいつでも手に入る様になったのでぜひ競技場で見たい。テレビで見ることのできない熱気を肌で感じる事ができる。たいてい競技場は規模が小さいので、スタンドとグラウンドは近い。選手が目の前に見え、声をかけると手をふってくれる。

選手はファンサービスがよい。中には例外もいるかもしれないが、気軽にサインをして

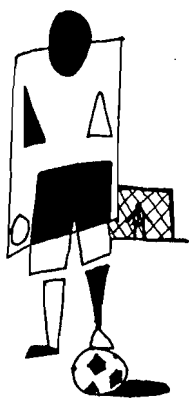
くれたり、一緒に写真をとったり。又、外国から優秀なプレイヤーが日本に来ているのでワールドクラスのプレイヤーが生で見られるのも魅力の一つである。

そして、ひいきのチームがあればスタンドで他のサポーターと一体となって応援できるのも楽しい。大きな声援をおくれば、日頃のストレスも発散でき一石二鳥となる。

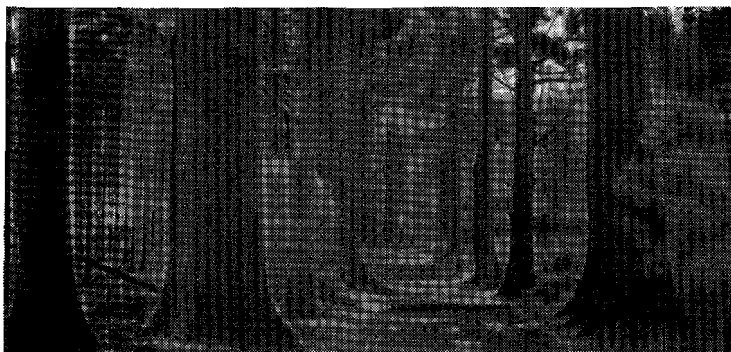
何といっても最終目標にワールドカップがある。二〇〇二年は日本と韓国の共催でワールドカップが開かれる。その前に来年フランスワールドカップがあり、現在その出場のため予選が行われている。日本の代表チームも9月から11月まで最終予選を戦い、悲願の初出場をねらっている。対戦相手に恵まれている分、今回は可能性が高い。

スポーツは野球と違っているあなた。ぜひだまされたとってサッカーを見て下さい。又違った感激を味わうことまちがいなしです。

(58・教) 阿部 雅子



## 平山郁夫 「熊野路・古道」



早稲田大学蔵

## ハイキング会活動

一昨年幹事会の席上で、ゴルフ、囲碁、ハイキング等の趣味の会を造ろうと云う意見が出ました。

私が当座ハイキング会を担当させられる事になり、取りあえず総会開催案内の返信はがきの趣味欄にハイキングと記入された方約三十名を勝手に会員にして山行案内を発送致しました。

第一回は昨年十一月二十四日、奥多摩の三頭山を計画し、八名の出席を得ました。

コースはJR五日市駅よりバスで約一時間秋川溪谷を遊行し都民の森に到着、大滝を経て三頭山頂にて食事を済まし真新しい避難小屋をのぞき、笹屋根を左に奥多摩の山並右手に権現山、遠くに道志山陵更に富士山を眺めて数馬バス停迄、五日市駅近くでそばを美食しながら、反省会やら次回の山行の計画など話し帰途につきました。

第二回は今年五月二十五日秩父のわらび山を計画しました。出席者は五名でした。

コースは西武飯能駅より約一時間風情ある山合いの部落をながめながら名郷迄、わらび山北尾根を二時間半をかけ、都会では見られない草花を愛でながら頂上に向いました。

生憎と薄曇のため遠望は出来ませんでした。が晴れていれば新宿の副都心迄視透す事出来

ます。それでも武甲山を始め秩父の山並は素晴らしいものでした。下山は金比羅尾根を名栗湖に下り最近開業した、さわらびの湯で一浴し、帰宅の途につきました。

目下の処二回ですが、九月二十一日中央線藤野駅の北側に連なる名もない低山をゆっくり歩く企画をたて御案内をいたしました。参加して下さる方々の足並が分らないため、どの程度の山を選んだらよいか大変迷う処です。良い意見が在りましたらお教え下さい。

幹事

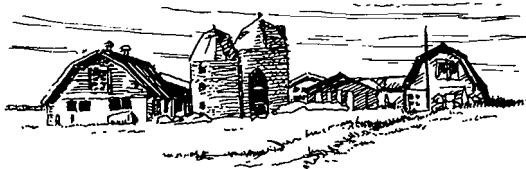
(32・商)山本 栄道

## 残照の独り言

教会で洗禮もうけた。これが西田幾多太郎博士のまだ電脳回路からであらう。八王子にボクシングクラブを設立する米国人が居て短い期間だったが肉体の造形美も求めてスパリングを楽しんだ。そして未だプレハブ造りのダンス教室だがクイックステップが得意で戦後の青年期も楽しかった。少年が感動した西田哲学は、自己自我同一は、何んだったのだから。今も私は「独り猿」になって居た。四十年代半ばで町工場の経営者。そして今はバブルで七十二才の零細企業者で居る。太極拳は始めて未だ七年そして脳生理学の本に興趣を發見、未だ終章のページまで自己反省の度が過ぎぬ程度なら皆薬石と成り今からでも私の人間成長の糧になるかも知れない。

関口 整次

少年時代の十代後半には西田哲学の「善の研究」に感泣し何度も読耽って居た。時折は友達とは放れ孤独に、まだ早朝の人通り無い池袋二丁目通りを哲学書を抱えて歩くことが思想の混迷からの時代思潮の退転でもあった。工業学校では電気工学科として早稲田では機械工学科。と云っても戦中で勉強は程々のうち。中支漢口の野戦航空修廠に勉学半ばで連れていかれた。終戦後一ケ年間、中国で抑留、復員して戦後の産業復興で大手上場企業二社を転職した二十代後半は特需会社の米軍土木機械のテクニカルマニアル理解の為、短大の英文科にも夜学んだ。プロテスタント



# 健康法を求めて

日野稲門会の登山同好会（正式な名前だったかどうか）より毎回開催案内を頂戴しながら未だ一度も参加せず、そのうち除名されるのではと心配しているが、仲間との話題がもっぱら年金のことになり始める年になると、筋肉の衰えどころか骨そのものが金属疲労を起しているのではないかと思える程、次々と故障が出てきてしまい、参加する自信を失くしてしまふ。

そういえば知人の整形外科医が「最近、骨折したり病気になるったりして整形外科を訪れる患者さんより、ママさんバレーやダンスにと極めて健康なご婦人達が骨粗鬆症なるものを気にして、産婦人科に行くケースの方が多くなり、出産が少なくなった割には産婦人科は今や笑いがとまらない筈」というようなことをやっかみ半分云っていた。

確かに自分もゴルフに行けば、翌日の節々の痛みは、やはり肋骨にヒビでも入っているのではないかと疑い、山に行けば行ったで、階段の昇り降りも出来なくなるのは膝関節が摩耗しきっているではと本気で心配してしまふのは事実。

しかし、骨粗鬆症というものの、医者に行っただけで治る訳でもない老化現象の一つであろうし、今更骨を鍛えようとしても無駄な努力と

思えなくもない。

「ゴルフで体が痛くなるのは、普段デスクワークだけで両手を肩より上に挙げるような動きもせず、せいぜい胸の前あたりで仕事をしているからだ。膝が痛くなるのも、普段車での生活中心で階段の昇り降りなど、ぜんぜんしてないからだ」と云われれば頭かざるを得ない。

しかし、最近健康ブームとかで自分の健康には関心が高いのだが、ちょっとした異常

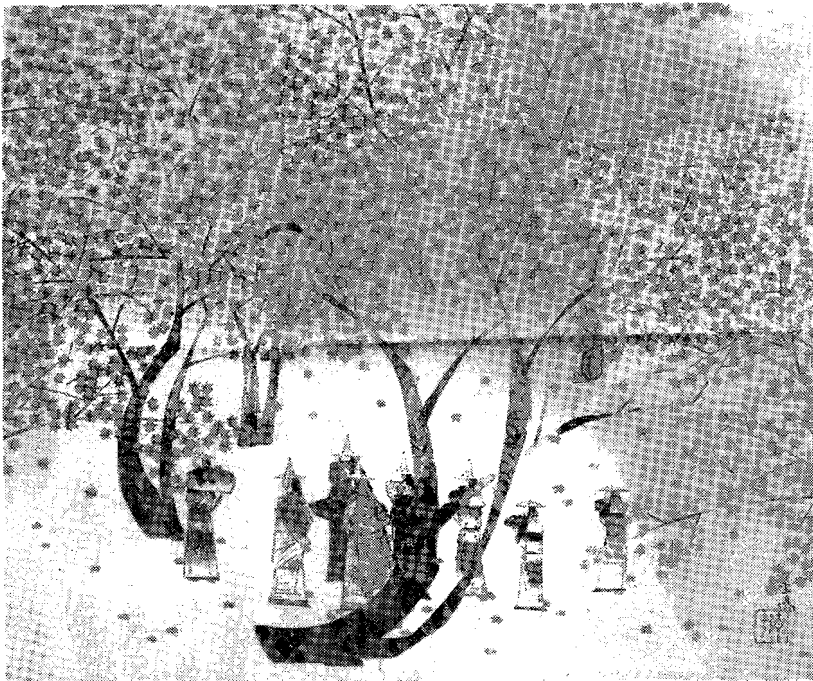
にも過剰反応し、不老長寿の薬を探し求め、

挙げ句の果てにあちらこちら名医を求めて、ドクターショッピングするようなことだけは真みたいと思っているのだが。

といって、さてどうするかといえば「近所の散歩」ぐらいしか思いつかない自分自身。今後も山登りの案内は、出席率にかかわりなく頂戴したいという勝手なお願いをしたいのです。

（37・法）皆川 隆司

## 前田青邨 「紅葉」



早稲田大学蔵

### 総会・懇親会 のお知らせ

（第一部）総会

日時 97年10月18日（土） 11時30分から

受付は11時から

場所 杏花飯店

（JR豊田駅北口京王ファミリーユ3F）

会費 7千円（年会費は別に2千円です）

（第二部）講演会（12時から）

講演 「早稲田スポーツ」について

講師 早稲田大学人間科学部

森 武教授

（第三部）懇親会（1時から）

※なお、97年度の年会費のお振込はお早めにお願ひします。

（事務局）